衆議院ベトナム訪問議員団

報　告　書

令和７年１２月

令和７年１２月

衆議院議長　額 賀　福志郎 殿

衆議院ベトナム訪問議員団
団長　　小　渕　優　子

当議員団は、ベトナム国会との交流促進及び政治経済事情等調査のため、令和７年８月６日から１０日までの５日間、ベトナムを訪問いたしましたので、その概要を御報告いたします。

― 目　　次 ―

頁

１．団　名 …… 1

２．目　的 …… 1

３．派遣議員団 …… 1

４．派遣期間 …… 1

５．派遣国 …… 1

６．主な活動 …… 2

７．主な日程 …… 3

８．活動の概要

（１）レー・ミン・フン越日友好議員連盟会長との意見交換 …… 4

（２）ＪＩＣＡ海外協力隊員との意見交換 …… 6

（３）トー・ラム ベトナム共産党書記長表敬 …… 8

（４）チャン・タイン・マン国会議長表敬 …… 10

（５）カントー投資セミナー　MEET JAPAN -MEKONG DELTA REGION

①セミナー …… 12

（ネットワーキングセッション）

②メコンデルタ５省市幹部との意見交換 …… 17

③日系企業との意見交換 …… 21

（６）グエン・ヴァン・ドゥオック ホーチミン市人民委員長との意見交換 … 22

（７）ホーチミン市都市鉄道１号線（メトロ）視察 …… 24

９．参考資料

（１）ホーチミン市都市鉄道建設事業 …… 25

（ベンタイン―スオイティエン間（１号線））（JICA 資料）

１．団名

衆議院ベトナム訪問議員団

２．目的

ベトナム国会との交流促進及び政治経済事情等調査のため

３．派遣議員団

団長　　衆議院議員　　小　渕　優　子（自民）
（日本・ベトナム友好議員連盟会長）
衆議院議員　　宮　内　秀　樹（自民）
（日本・ベトナム友好議員連盟事務局長代理）
参議院議員　　片　山　さつき（自民）※
（日本・ベトナム友好議員連盟副会長）
衆議院議員　　遠　藤　　敬（維新）※
（日本・ベトナム友好議員連盟副会長）
衆議院議員　　青　柳　陽一郎（立憲）※
（日本・ベトナム友好議員連盟副会長）
衆議院議員　　武　部　　新（自民）※
（日本・ベトナム友好議員連盟事務局長）

（同行）

小渕優子議員秘書	輕　部　順　子
議事部資料課長	髙　野　順　二
外務省南東アジア第一課長	久　賀　百合子
外務省南東アジア第一課外務事務官	臥　雲　悠　太

※公式派遣議員ではないが、友好議員連盟役員として参加。

４．派遣期間

令和７年８月６日（水）から１０日（日）までの５日間

５．派遣国

ベトナム

６．主な活動

（１）トー・ラム ベトナム共産党書記長を表敬し、日本・ベトナム友好議員連盟訪越の意義、カントー投資セミナーを含むメコンデルタ地域における協力、日本のベトナムに対するこれまでの貢献、同書記長が掲げる「新しい時代」（ベトナム民族が飛躍する新たな発展の時代）への協力、今後の日越の協力関係、ホーチミン市都市鉄道１号線における諸課題解決の重要性等ビジネス環境の改善について意見交換を行った。

（２）チャン・タイン・マン国会議長を表敬し、日越の国会及び政府等の交流、衆参両院議長の訪越、半導体分野をはじめとする高度人材の育成、両国間の人的交流、メコンデルタ地域における協力、ホーチミン市都市鉄道１号線における諸課題解決の重要性等ビジネス環境の改善について意見交換を行った。

（３）レー・ミン・フン越日友好議員連盟会長と面会し、両国議員連盟の連携の促進、日越関係の強化、来年１月に開催されるベトナム共産党大会、行政や党の改革に係る取組について意見交換を行った。

（４）グエン・ヴァン・ドゥオック ホーチミン市人民委員長と面会し、同市における行政手続の円滑化や生活環境の向上、同市都市鉄道１号線における諸課題解決の重要性等について意見交換を行った。

（５）ＪＩＣＡ海外協力隊の７名の隊員（それぞれの職種は、日本語教育、言語聴覚士、コミュニティ開発、番組制作、幼児教育）から活動報告を受け、日本の教育制度等との差異、学生の意識、日本語教師の能力等について意見交換を行った。

（６）カントー投資セミナー　MEET JAPAN -MEKONG DELTA REGION

同セミナーは、チャン・タイン・マン国会議長、グエン・チー・ズン副首相、ドー・タイン・ビン カントー市党委書記他メコンデルタ５省市代表者、伊藤直樹駐ベトナム日本国特命全権大使、日本企業及び日本・ベトナム友好議員連盟メンバー等の参加の下開催された。小渕団長他より開会挨拶の後、メコンデルタ５省市及び日本企業からプレゼンテーションが行われた。

７．主な日程（時間は現地時間）

令和７年

８月６日（水）

１８：２０　成田空港発（JL751）

２１：５０　ハノイ着

【ハノイ泊】

８月７日（木）

９：４５　英雄烈士像視察、献花

９：５０　ホーチミン廟視察、献花

１０：３０　レー・ミン・フン越日友好議員連盟会長との意見交換

１３：０５　ＪＩＣＡ海外協力隊員との意見交換

１６：００　トー・ラム ベトナム共産党書記長表敬

１７：１５　チャン・タイン・マン国会議長表敬

１８：００　チャン・タイン・マン国会議長主催夕食会

【ハノイ泊】

８月８日（金）

１１：１５　ハノイ発（VN1203）

１３：３０　カントー着

１４：００　カントー投資セミナー

１６：５０　メコンデルタ５省市幹部との意見交換

１７：３０　日系企業との意見交換

１８：３０　カントー市主催夕食会

【カントー泊】

８月９日（土）

９：１０　カントー橋慰霊碑訪問

９：３０　カントー発（車両）

１１：３０　ホーチミン着

１２：２５　グエン・ヴァン・ドゥオック ホーチミン市人民委員長との意見交換

１３：２５　ホーチミン市人民委員会主催昼食会

１４：３０　統一会堂（旧南ベトナム大統領官邸）視察

１６：３０　ホーチミン市都市鉄道１号線（メトロ）視察

１８：００　ホーチミン日本商工会議所（JCCH）関係者との夕食会

２３：０５　ホーチミン発（JL070）

【機中泊】

８月１０日（日）

６：４５　羽田空港着

８．活動の概要

（１）レー・ミン・フン越日友好議員連盟会長との意見交換

・期　日　８月７日（木）10:30
・場　所　ベトナム共産党本部
・対応者　レー・ミン・フン（Le Minh Hung）党中央組織委員長・越日友好議員連盟会長他９名
・概　要

冒頭、フン会長より、この度の小渕団長ご一行の訪越を歓迎するとともに、小渕議員の日本･ベトナム友好議員連盟会長就任に対してお祝いの言葉を述べた。また、越日両議連の緊密な連携を促進したいとの発言があった。

これに対し、小渕団長より、７月 19 日に発生したハロン湾での観光船事故及び７月下旬のディエンビエン省、ゲアン省における鉄砲水、地滑りによる犠牲者に対し哀悼の意を表するとともに、ご遺族に対するお悔やみの言葉を述べた。2023 年の日越外交関係樹立 50 周年の機会に二階前会長の下、団員の一人としてベトナムを訪問し、今回、会長として訪越し、フン会長にお会いできたことについてうれしく思っている。また、父・小渕元総理と親子揃って日越関係の発展に貢献できることは喜ばしく、議連を通してベトナムとの交流を進めていきたいとの発言があった。

続いて、各団員より、自己紹介が行われた。

小渕団長より、「新しい時代」を迎えるベトナムと包括的戦略的パートナーシップの下、より一層関係を強化していかなければならない。その中で我が国は、日本の強みを活かしていきたい。ベトナムには日本企業の要望を聞き、投資環境の整備に一層注力いただきたいとの発言があった。

これに対し、フン会長より、越日関係推進への貢献に対する感謝の言葉を述べた。ベトナムは、2030 年までに上位中所得国、2045 年までに高所得の先進国となることを目標としており、そのため、現在、2026 年１月の党大会に諮る基本的、戦略的な発展計画の作成に注力していること、また、社会基盤の整備として省庁・省市再編などの中央・地方再編が行われたことが紹介された。

小渕団長より、２つの大きな目標に向け、ダイナミックな改革を成し遂げたこと、そのリーダーシップに敬意を表するとともに、日本としてベトナムの改革を支持する旨述べた。また、来年１月の党大会の成功、フン会長の訪日を招請する発言があった。

最後に、フン会長より、訪日招請に対する感謝の言葉が述べられるとともに、額賀議長をベトナムにお迎えしたいとの発言があった。

（２）ＪＩＣＡ海外協力隊員との意見交換

・期　日　８月７日（木）13:05
・場　所　在ベトナム日本国大使館大使公邸
・対応者　海外協力隊員７名
　　小林　洋輔　国際協力機構（JICA）ベトナム事務所長
・概　要　冒頭、小林ＪＩＣＡベトナム事務所長より、ＪＩＣＡ海外協力隊事業等の概要について説明を行った後、各海外協力隊員より活動報告があった。その後、各海外協力隊員と日本の教育制度等との差異、学生の意識等について意見交換を行った。
・主な発言要旨

【海外協力隊事業等に関する概要説明】

○小林所長

海外協力隊事業は、皆様ご自身の技術、知識、経験を途上国の人々のために生かしたいという志をお持ちの方々を途上国に派遣させていただく事業である。目的としては、途上国の経済、社会の発展の寄与や異文化理解に加えて、社会還元といったものも含まれている。帰国された隊員の方々は、隊員としてのご経験を様々な場所で還元していただいており、その還元の形は様々であるが、例えば、地方における国際理解や外国人材の共生社会の構築への貢献といった形などである。特に、日本国内で生活されるベトナムの方々はどんどん増えていく中、ベトナムの文化や言葉、経験を通じて理解された帰国隊員の方々は日本全体にとって貴重なアセットであると私どもは考えている。私どもも、例えば、群馬県の前橋市において、ベトナムの病院で作業療法士として活躍された帰国隊員の方に、ＪＩＣＡの窓口として活躍いただいて、地域の方々の国際理解の促進などにもご貢献いただいているところである。

海外協力隊員の派遣に至るまでのプロセスは、募集・選考の後、２か月間、派遣前訓練を福島県の二本松で受けられて、また、こちらにいらっしゃってからも３週間の語学訓練を受けられた後、それぞれの配属先に配属される。

ベトナムにおける事業は、1995 年２月に開始しており、今年 30 周年を迎える。派遣第１号は、ハノイにあるいくつかの大学への日本語教師３名の短期派遣であったが、それ以降、派遣地域、分野いずれも拡大してきており、現在では 46 名の隊員がベトナムの北から南まで様々な地域で活動をされている。分野については、日本語教育になられる隊員の方が一番多い状況である。

今までベトナムには、762 名の隊員の方々に来ていただいており、男性 347 名、女性 415 名と女性の方が多い傾向にある。コロナの前とコロナの後で全世界での派遣中人数は、だいぶ減少してしまったが、ベトナムにおいては同じ 46 名という人数で、世界でも１位、２位を争う隊員の数となっている。30 年間の職種ごとの傾向としても、日本語教育の方が一番多い状況にある。

（３）トー・ラム ベトナム共産党書記長表敬

・期　日　８月７日（木）16:00
・場　所　ベトナム共産党本部
・対応者　トー・ラム（To Lam）ベトナム共産党書記長他５名
・概　要

冒頭、トー・ラム書記長より、日越友好議員連盟会長就任に対するお祝いの言葉を述べた。議連は、議員間だけではなく越日の人的交流に対しても多大な貢献をしてきた。小渕会長には、越日関係において歴代の会長の積み上げた実績に加えてさらに力を発揮していただきたいとの発言があった。ご一行の訪越は議連が新しい体制になって初めての公式訪問であり、二国間の関係をさらに発展させてくれるものと確信している。また、今回、一行の訪問先の一つであるメコンデルタ地域の紹介があり、カントー市で開催されるカントー投資セミナーへの参加を歓迎する旨述べた。

これに対し、小渕団長より、７月 19 日に発生したハロン湾での観光船事故、７月下旬のディエンビエン省やゲアン省といった地域における鉄砲水や地滑りによる犠牲者に対し哀悼の意を表するとともに、ご遺族に対するお悔やみの言葉を述べた。日越外交関係樹立 25 周年の際の小渕元総理のドイモイ政策を通じた発展への感銘を述べた政策演説にも触れ、トー・ラム書記長が進める力強い改革に感銘を受けたとの発言があった。議連として人的交流だけでなく、投資分野においても連携を深めていくとともに、トー・ラム書記長が進める「新しい時代」に向けた改革を支持しており、協力していきたいと述べた。特に、脱炭素や都市鉄道などのインフラについては重点的に協力したい。こうした協力を加速化するに当たり、日本企業が安心して事業に協力できるよう、ホーチミン市都市鉄道１号線等の諸課題の解決が図られるよう要望した。

続いて、各団員より、自己紹介が行われた。

伊藤大使より、日越友好議員連盟代表団の受け入れに対する謝意、ホーチミン市都市鉄道１号線等の諸課題に対するトー・ラム書記長からの関係機関への指導に関する要望を述べた。

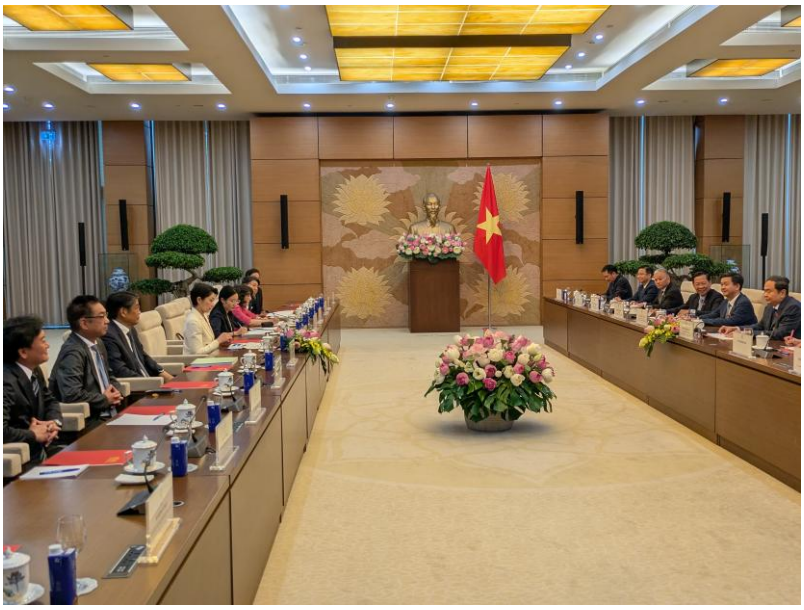
これに対し、トー・ラム書記長より、ベトナムは、2045 年までに先進国入りすることを目標としており、日本をはじめとする国際的なパートナーからの協力の下、ドイモイ政策を引き続き貫いていくとともに、ドイモイ政策による成果をさらに発揮するため、体制・メカニズム刷新、法整備、行政改革を行う必要があると述べた。また、ホーチミン市都市鉄道１号線は重要なインフラ案件であり、両国の協力を象

徴する案件である。課題解決に向けて双方連携していきたい。両国の関係等に影響が出ないように解決が図られることを期待していると述べた。

最後に、小渕団長より、来年の党大会の成功を祈念するとともに、トー・ラム書記長の訪日を期待しているとの発言があった。

（４）チャン・タイン・マン国会議長表敬

・期　日　８月７日（木）17:15
・場　所　国会議事堂
・対応者　チャン・タイン・マン（Tran Thanh Man）国会議長他７名



・概　要

冒頭、マン議長より、皆様の訪越を歓迎するとともに、昨年 12 月のマン議長訪日の際の日本側の歓迎に対する謝意を述べた。また、小渕団長の今後の日越関係発展への貢献を確信しているとの発言があった。

これに対し、小渕団長より、７月 19 日のハロン湾での観光船の事故、また、７月下旬のディエンビエン省やゲアン省といった地域での鉄砲水、地滑りによる犠牲者に対して哀悼の意を表するとともに、ご遺族に対するお悔やみの言葉を述べた。また、今回、マン議長の地元であるカントー市を訪問し、カントー投資セミナーに参加する。引き続きカントー市やメコンデルタ地域へ日本企業が進出できるよう力添えいただきたい。今後の日越関係は、まさに未来を一緒に創っていく「共創」する関係であると思っている。ベトナムが重視する半導体や脱炭素化といった分野をはじめ、お互いに学び補完をし合って課題を一緒に乗り越えていきたいと思っている。そうした場面に当たり、日本企業が安心して事業に協力できるようにホーチミン市の都市鉄道１号線等に関する諸課題の解決をぜひお願いしたいとの発言があった。

これに対し、マン議長より、カントー投資セミナーに関して両国の各地方自治体に新たな気力が生み出されることを期待する。また、ベトナム国会と日本の衆議院、

参議院との間の連携は効果的に実施されており、これらの活動は両国関係、また、包括的戦略的パートナーシップのさらなる深化に貢献しているとの発言があった。続いて、両国政府、国会を含むあらゆるレベルでの信頼関係の強化、高度人材育成、エネルギーなどの分野における投資を通じた新たな柱の推進の強化、議員連盟の交流の促進、両国間の人的交流の促進、ＡＩＰＡ（ASEAN 議会間会議）、ＩＰＵ（列国議会同盟）等の多国間メカニズムにおける緊密な連携の必要性を述べた。また、衆参両院議長の適切な時期における訪越を希望する旨発言があった。ホーチミン市都市鉄道１号線の諸課題について、最大限配慮を行って進めてまいりたいとの発言があった。

小渕団長より、ホーチミン市都市鉄道１号線の諸課題に関する前向きな回答に対する謝意などを述べた。また、来年年初の党大会の成功を祈念するとともに、これからも議連として議員交流、国会交流をしっかりと務め両国の発展に尽くしていきたいとの発言があった。

（５）カントー投資セミナー　MEET JAPAN -MEKONG DELTA REGION

①セミナー

・期　日　８月８日（金）14:00
・場　所　Charmant Suites a Boutique Hotel Can Tho（５階）
・出席者　（ベトナム国会）チャン・タイン・マン(Tran Thanh Man）国会議長他６名
（ベトナム政府）グエン・チー・ズン(Nguyen Chi Dung)副首相他５名
（カントー市）ドー・タイン・ビン(Do Thanh Binh)中央委員・党委書記他12名
（ビンロン省）ルー・クアン・ゴイ(Lu Quang Ngoi）副党委書記・人民委員長他６名
（タイニン省）ファム・タン・ホア（Pham Tan Hoa）副人民委員長他10名
（ドンタップ省）グエン・キム・トウエン（Nguyen Kim Tuyen）財政局長他７名
（アンザン省）ゴー・コン・トウック(Ngo Cong Thuc)副人民委員長他４名
（カマウ省）フイン・コック・ヴィエット(Huynh Quoc Viet）党中央補欠委員・常務副党委書記・ベトナム祖国戦線会長他６名
ベトナム企業、日本企業等
・概　要
・本セミナーは、ベトナム外務省、カントー市人民委員会、在ベトナム日本国大使館、日本貿易振興機構（JETRO）により開催されたもので、カントー市をはじめとするメコンデルタ地域と日本との交流、投資の促進を図ろうとするイベントである。本セミナーは、ベトナム国会、政府、省市関係者、ベトナム企業（40 社)、日本企業（70 社)、合計 300 人以上の出席者の下開催された。
・冒頭、ドー・タイン・ビン カントー市党委書記より、開会挨拶でカントー市とハウザン省、ソクチャン省との合併に触れ、新しいカントー市について効果的な投資を誘致し発展していくことを推進していく。カントー市の持続的発展にご協力いただきたいといった発言があった。
・小渕団長より、開会挨拶を行った（小渕団長の挨拶は、後掲)。
・チャン・タイン・マン国会議長より、開会挨拶で日本のＯＤＡによる多大な貢献に対する謝意、ハイテク産業、デジタルトランスフォーメーション(DX)、

クリーンエネルギー、スマート農業への投資の奨励、また、投資環境の整備、制度の透明化、行政手続の簡素化に引き続き取り組んでいくといった発言があった。

・メコンデルタ５省市の各代表者からは、メコンデルタ地域の地理的、投資先としての優位性、日本からの投資への期待、農産物の研究、人材育成、バイオマス、医療分野における日本の協力、太陽光発電、再生可能エネルギー分野における有益性、日本のＯＤＡによるインフラ整備の必要性、投資環境の整備、推進等について発言があった。

・また、日本企業等から、プレゼンテーションが行われた。

・最後に、伊藤直樹駐ベトナム日本国特命全権大使、ゴー・レー・ヴァン外務次官から、閉会挨拶が行われた（伊藤大使の挨拶は、後掲）。

（小渕団長の開会挨拶）

チャン・タイン・マン国会議長、グエン・チー・ズン副首相、ドー・タイン・ビンカントー市党委書記、ビンロン省、タイニン省、ドンタップ省、アンザン省、カマウ省の代表者の皆様、ゴー・レー・ヴァン外務副大臣、そして、ご出席の皆様、Ｘｉｎｃｈａｏ！（こんにちは）

本年４月に、二階俊博先生の後任として、日越友好議員連盟の会長に就任をいたしました、衆議院議員の小渕優子でございます。

私の父、小渕恵三は第 84 代の内閣総理大臣を務め、さらに、日越友好議員連盟の会長を務めておりました。親子二代で、日越関係を発展させるというこのような重責を担うことができることは、大変光栄なことであり、父と同様に、日越友好関係を発展させていきたいと思っています。

父が、日越外交関係 25 周年の 1998 年にベトナムを訪問した際、「アジアの明るい未来の創造に向けて」という政策演説を行いました。その際、ベトナムのドイモイ政策を通じての発展への感銘と、これを支えるベトナムの人々の伝統に裏打ちされた教育水準への賛辞を述べていました。それから約 27 年が経ちましたが、ＡＳＥＡＮ諸国の中で急速な経済発展を続けている現在のベトナムの姿を見て、私は、当時の父以上の大きな感銘を受けています。

改めまして、マン国会議長におかれては、本日の投資セミナー「ＭＥＥＴ　ＪＡＰＡＮ」にご招待をいただき誠にありがとうございます。昨年 12 月に議長が日本を訪問された際、さらに本年４月末の石破総理の訪越時において、議長により大変熱意のある提案をいただきました。本日、省市合併後の新たなカントー市、そしてメコンデ

ルタ全体の経済発展を議論するセミナーという形で結実したことに、尊敬の念を抱かずにはおられません。

現在、日本で生活するベトナム人は、国別２位、昨年末には 63 万人を超え、過去最高を更新し、ベトナム文化も日本に浸透しています。東京で毎年春にベトナムフェスティバルが開催されますが、創設当時の 2008 年から委員長を務めている青柳陽一郎先生が、日本でベトナムの魅力を大いに発信し続けられています。今年は、私も、日越友好議員連盟会長として参加をいたしましたが、２日間で 14 万人を超える人が来場し、とても盛況でございました。

また、現在開催中の大阪・関西万博のベトナムパビリオンは、１日当たり約１万人の来場者を記録しており、ベトナムがより親しみのある国になっています。

日越友好議員連盟の会長として、包括的戦略的パートナーシップの下、日本とベトナムの友好関係をさらに上のステージに導いていきたいと強く願っています。

最後になりますが、本日の「ＭＥＥＴ　ＪＡＰＡＮ」の成功、そして、本日ご出席の皆様のご健勝、ご活躍を祈念し、私のご挨拶とさせていただきます。

Ｘｉｎ　Ｃａｍ　ｏｎ（ありがとうございました）

（伊藤大使の閉会挨拶）

ドー・タイン・ビン カントー市党委書記、ゴー・レー・ヴァン外務副大臣、本日、ご発表いただきましたカントー市、ビンロン省、カマウ省、タイニン省、アンザン省の幹部の方々、小渕優子日越友好議連会長、議連の幹部の皆様、ご来賓の皆様、ご列

席の皆様、本日はこのように大変多くの方にご参加をいただく中で、ここカントー市におきまして、「ＭＥＥＴ　ＪＡＰＡＮ」を大変盛大に、そして成功裏に開催をできましたことに、心より感謝を申し上げます。誠にありがとうございました。

今回のようなメコンデルタといった、広域の経済圏を対象として、ベトナムの中で投資促進についての大きなセミナーを開催させていただいたことは、日越両国にとって初めての試みでございました。ご協力をいただいた、マン国会議長、ズン副首相をはじめとするベトナムの政府の関係の方々、そして省市幹部の方々、小渕会長をはじめとする日越友好議連の皆様におかれましては、ご協力をいただき、ご賛同いただき、そしてお忙しいご日程の中、ご出席いただいたことに心より感謝を申し上げます。

そして、何よりも、この投資のセミナーは企業の方々のご参加なしでは成り立たない訳でございます。日本企業 70 社、ベトナム企業 40 社、合わせて 300 人以上の方に今日ご出席をいただきました。心より感謝を申し上げます。

そして、大変中身のあるプレゼンテーションをメコンデルタ地域の省市の方々、日本企業の方々にしていただきました。今日のセミナーを通じて、メコンデルタの経済発展の潜在性、投資事業展開の魅力について、実感をいただけたのではないかと思います。

また、日本の企業のさらなる事業の展開に対する意欲、姿勢については、ベトナムの側の方には非常によく理解をいただけたのではないかと思います。各省市の強み、ポテンシャルを活かして、本日のテーマである、農業、水産業、インフラ、エネルギー、小売、サービス業といった幅広い分野で、ますます日本企業による投資、事業の展開が進むことを私ども大変強く期待をしています。

ベトナムが大変目まぐるしいスピードで新しい時代に向けた改革が進む中で、日本企業の期待も高まっております。行政手続の簡素化、効率化、投資環境の改善、あるいは、エネルギーの事業についてのバンカビリティの向上等については、大使館も常日頃からいろいろな期待を企業の方々から伺っております。本日、各市、省の幹部の方からは改革をさらに進める。そして、手続きの改善を進める。あるいは大変競争力のある投資市場の環境を作るという非常に力強いご発言をいただいたことに勇気づけられておりますし、本日のセミナーを契機に、ますます日本の企業の方々がメコンデルタ地域に対する事業の拡大に関心を持たれて、この地域の持続的な開発に貢献をいただけるきっかけとなることを心から期待しています。

日越議連の小渕会長、遠藤副会長、青柳副会長、武部事務局長、宮内事務局長代理には本当にお忙しいご日程の中、ハノイ、そしてカントーにおいて、将来の日越関係の発展につながるような日程をこなしていただいていること、感謝を申し上げたいと

思います。そして、明日、ホーチミンでの日程も予定をされています。日越議連の皆様におかれては、機会を捉えてベトナムにまた再訪いただく、そして今回のような形で、「ＭＥＥＴ　ＪＡＰＡＮ」、あるいは投資のセミナーにご出席をいただいて、皆様方の声を直に聞いていただくような機会をまたご検討いただければと思います。

最後になりますが、このセミナーの開催に当たって非常にご尽力をいただいた、ベトナムの外務省の方々、カントー市の方々、そして、ご共催をいただいたＪＥＴＲＯの方々にも心より御礼を申し上げます。最後に、皆様のご健勝とご多幸をお祈りして、私からの挨拶といたします。誠に本日はありがとうございました。

②メコンデルタ５省市幹部との意見交換

・期　日　８月８日（金）16:50
・場　所　Charmant Suites a Boutique Hotel Can Tho（19 階）
・対応者　（カントー市）チャン・ヴァン・ラウ（Tran Van Lau）副党委書記・人民委員長他１名
（ビンロン省）ルー・クアン・ゴイ（Lu Quang Ngoi）副党委書記・人民委員長
（カマウ省）フイン・コック・ヴィエット（Huynh Quoc Viet）党中央補欠委員・常務副党委書記・ベトナム祖国戦線会長
（タイニン省）ファム・タン・ホア（Pham Tan Hoa）副人民委員長
（ドンタップ省）グエン・キム・トイエン（Ba Nguyen Kim Tuyen）財政局長
（ベトナム外務省）レー・ティ・ホン・ヴァン（Le Thi Hong Van）地方対外文化外交局長他１名

・概　要　カントー投資セミナー終了後、メコンデルタ５省市幹部と意見交換を行った。
○（カントー市）チャン・ヴァン・ラウ副党委書記・人民委員長
日越友好議員連盟小渕会長、ご一行の皆様、伊藤大使、メコンデルタ地域の各省の指導者の皆様、先ほど開催された「ＭＥＥＴ　ＪＡＰＡＮ　－ＭＥＫＯＮＧ　ＤＥＬＴＡ　ＲＥＧＩＯＮ」にご出席いただいたことに対し、カントー市を代表して心より感謝を申し上げる。会議では様々な内容について活発に議論させていただき成

功裏に終えることができた。これは、越日関係機関の友好関係の深化に資するものであると確信している。

省市再編に基づいて 2025 年７月１日から新しいカントー市が誕生した。現在、市の面積は 3,600 ㎢、人口は 420 万人、海岸線は 72㎞ となった。経済規模は、108 億米ドルに上り、輸出額は 55 億米ドルとなっている。カントー市は、サービス、農業、工業などの多様な産業を有する投資先となる一方、稲作の作付面積は 32 万 ha 近く、生産量は年間 460 万トンとなっている。

観光もカントー市の魅力的な産業となっており、毎年、平均で 100 万人以上の観光客に来ていただいている。各メコンデルタ地域へつながる高速道路、国際空港もあり、カントー市は大都市に発展する可能性を十分有している。カントー市は、経済、産業、観光、農業の他、ＬＮＧ発電や風力発電といった分野においてもポテンシャルを有するダイナミックで多様性のある都市となっている。

これまでカントー市は、越日関係の推進に努力を惜しまず貢献してきた。包括的戦略的パートナーシップに格上げ後も変わらずに推進してきた。兵庫県、岡山市、那須塩原市、福岡市とも関係を有している。カントー市においては、2017 年にジャパンデスクを設置した。主な機能としては、カントー市に投資しようとする日本企業へのサポート、また、カントー市の都市環境に関する情報提供などである。今後においても、小渕会長をはじめ、伊藤大使、ご一行の皆様から、日本企業に対しカントー市により来ていただけるように一層のご支援、お力添えをお願いしたい。先ほど、カントー市の代表者からの発言にもあったように、メコンデルタ地域における商品の製造、加工、輸出、サービスといった分野にぜひご関心を持っていただきたい。

最後に、各省の代表として小渕会長、伊藤大使、ご一行の皆様が、本日ご出席いただいたことに改めてお礼を申し上げるとともに、皆様のご健勝、ご多幸、ご成功を祈念する。

○（ビンロン省）ルー・クアン・ゴイ副党委書記・人民委員長

本日の会議は、大変有意義なもので、メコンデルタ地域をはじめとするベトナムと日本との関係に新たな機会を切り拓いてくれたものと推察している。

ビンロン省を代表して、これまでビンロン省と日本側のパートナーとを結び付けていただいた歴代の大使、ホーチミン総領事にお礼申し上げる。まさにこれから、この結び付きが効果的に展開される。議員の先生方には、ベトナムに関心を持って投資したいという企業があればぜひ紹介していただき、特に、このメコンデルタ地

域に投資するように働きかけていただきたい。ビンロン省として、ご紹介いただいた企業に対しては真摯に受け入れさせていただき、ビンロン省内の適切なカウンターパートを見つけ出せるように、また、投資環境を改善できるようにコミットさせていただきたい。引き続き大使、総領事のネットワークをさらに発揮していただくことを期待している。

○（カマウ省）フイン・コック・ヴィエット党中央補欠委員・常務副党委書記・ベトナム祖国戦線会長

小渕会長、伊藤大使、ご一行の皆様、私も先に発言されたお二人の意見に賛同したい。メコンデルタ地域は、観光地も多く、また、市民は穏やかで平和的な暮らしをしているという共通点がある。先ほど、ラウ委員長が発言したこの地域のアドバンテージについて私も賛同している。

しかし、強調したいのは、カマウ省にはメコンデルタに共通している部分もあれば、そうではない部分もあるということである。我が省は、ベトナムの最南端に位置し三面は海に面しており、海洋経済に特別なアドバンテージを有している。水産物の養殖、加工業、魚料理、また、風力発電などの再生可能エネルギーに強みを持っている。海洋、農業などは環境に優しい分野である。特に、カマウ省は国立公園を２つ有しており、ユネスコに認定されている。エコツーリズム、脱炭素の開発、または、循環経済、有機農業、そういった分野における開発に強みを有している。

観光分野に重点をおいて日本と協力して進めていきたい。観光を通じて、カマウ省における日本人に対する理解、また、日本人のカマウ人に対する理解を高めていきたい。

もう一つ強調したいのは、現在、中央がカマウ省に関心を寄せ、インフラ整備に投資しようとしている点である。カントーとカマウ間を結ぶ高速道路やカマウから最南端までをつなぐ高速道路を整備しているところである。また、フォンファイの港も新しく作られることになるなど大変価値ある投資先になると思う。

この場を借りて、これまでの日本政府、企業、地方自治体からのご協力に対し、３点お礼を申し上げたい。まず１つ目は、日本政府によるＯＤＡ資金を活用したインフラ整備の案件の形成、また、実行に感謝を申し上げる。２つ目は、日本企業がカマウ省に依頼し、都市案件を展開したことは我が省の経済社会の安定に貢献していただいた。最後に、日本の地方自治体においてカマウ省の労働者を受け入れ、彼らの生活の向上に貢献していただいたことに対しお礼申し上げる。

最後に２点お伝えしたい。１つ目は、カマウ省に進出している日本企業の投資が

スムーズに展開できるように、投資環境を整備し共に発展していきたいと考えている。２つ目は、会長、大使、ご一行の皆様にぜひカマウ省においでいただきたい。

○（タイニン省）ファム・タン・ホア副人民委員長

小渕会長、伊藤大使、皆様に対し何点か申し上げたい。まず初めに、大使、総領事に対しタイニン省と日本企業を結び付けていただいたことにお礼申し上げる。これにより、具体的な成果も出ており、現在、日本企業関係の案件は 173 件、総投資額は 10 億米ドルに上る。タイニン省において、日本からの投資は 40 か国中で第４位を占めている。タイニン省には工業団地が 57 か所、産業クラスターも 82 か所あり、総面積は２万 ha を有している。すでに整備済みの土地も 1,000ha あり、投資をすぐにも受け入れる用意がある。

先ほどの会議で投資誘致における７つの戦略分野（半導体、バイオ技術、医療設備、スマート農業、ロジスティックテクノロジー、都市開発、再生可能エネルギー）を申し上げたが、その中から日本に対し 12 項目をリストアップした。まず、工業団地、ロジスティックに関する５案件、ハイテク農業に関する４案件、教育デジタル化、都市開発に関する３案件、この後、タイニン省からＪＥＴＲＯ、ＪＣＣＩに当該リストを送らせていただきたいと考えている。近々、日越友好議員連盟小渕会長、ご一行の皆さんがタイニン省に来ていただくことを期待している。

○小渕団長

省市合併後の新たなカントー市、そして、メコンデルタ全体の経済発展を議論するセレモニーに参加でき大変有意義だったと思っている。

ベトナム、特にこのメコンデルタ地域は、日本にとっては引き続き魅力ある地域である。その一方で、投資をさらに促進するために改革を進めて、目に見える形での投資環境整備に一層尽力をいただきたいと思っている。ぜひ、各省市の指導者の皆様には、日本の自治体や、企業の要望をしっかりと聞いていただきたい。

両国の包括的戦略的パートナーシップ関係の下、各地方との交流も年々増加をしている。今後も様々な分野での地方間交流がさらに拡大していくことを期待している。我々、議連としてもこの地域にも参りたいし、しっかり支援をしていきたいと思っている。

③日系企業との意見交換

・期　日　８月８日（金）17:30
・場　所　Charmant Suites a Boutique Hotel Can Tho（19階）
・対応者　独立行政法人日本貿易振興機構（JETRO）ハノイ事務所所長
小篠　春彦氏
独立行政法人日本貿易振興機構（JETRO）ホーチミン事務所長
岡部　光利氏
国際協力銀行（JBIC）ハノイ駐在員事務所首席駐在員　安居院　徹氏
独立行政法人国際協力機構（JICA）理事　廿枝　幹雄氏
日系企業関係者
・概　要　カントー投資セミナーに参加した日系企業関係者と意見交換を行った。

〇小渕団長

今回は、議連会長になって初めてのベトナム訪問である。お集まりの皆さんは、この地域でそれぞれにご苦労いただき、また、頑張っていただいていることに心から敬意を表したい。しかしそういう中で、省庁が再編になり、地域の再編もあり、いろいろな意味で大変ご苦労をされているのではないかと思っている。我々ができることは、しっかりベトナムの政府や地域とつないでいくこと、そして、皆様の事業が円滑に進むように支援することである。いろいろなシステムや政治の体制も違うので、ご苦労することが多いと思うが、議連としては、本日も限られた時間になるが、皆さんのお声を聴かせていただいて、できることをしっかり後押しさせていただきたいと思う。日頃のご苦労に感謝申し上げる。

（６）グエン・ヴァン・ドゥオック ホーチミン市人民委員長との意見交換

・期　日　８月９日（土）12:25
・場　所　ホーチミン市人民委員会
・対応者　グエン・ヴァン・ドゥオック ホーチミン市人民委員長他８名

・概　要

冒頭、ドゥオック委員長より、日越友好議員連盟の皆様のホーチミンへの訪問を歓迎するとともに、会長をはじめご一行の皆様には、これまでベトナムと日本、そしてホーチミン市と日本の緊密な関係への貢献に対しお礼申し上げると述べた。また、小渕会長の本年４月の友好議員連盟会長就任に対する祝意が示され、会長としてこれからベトナムと日本の友好と協力の更なる発展のために、ご尽力とご支援をお願いしたいとの発言があった。

これに対し、小渕団長より、日本とホーチミン市の間のこれまでの協力、交流にも触れ、行政手続の円滑化や生活環境の向上など、日本企業、在留邦人に対する配慮を引き続きお願いしたいと述べた。また、ホーチミン市においては、両国間の象徴的案件といえる、ホーチミン市都市鉄道１号線が開業したが、日本企業が安心して事業に協力できるように、諸課題の解決をぜひお願い申し上げるとの発言があった。

ドゥオック委員長より、旧ホーチミン市と旧ビンズオン省、旧バリア・ブンタウ省の３つの都市の合併について説明があり、更なる開発の可能性があると期待しているので、ぜひ会長をはじめ皆様を通じて日系企業へ投資の呼びかけをお願いした

いとの発言があった。また、ホーチミン市都市鉄道１号線については依然として解決すべき課題が残されているが、諸課題解決のため双方の利益を調和させ、リスクを分かち合いたいとの発言があった。

これに対し、小渕団長より、チン首相が、来週、日本企業の方と会うことになっていると聞いているので、引き続きよく協議をしていきたいとの発言があった。

続いて、宮内議員より、私は、９年前に日本の国土交通省の大臣政務官を務めており、中断していたホーチミン市都市鉄道１号線の工事を再開させるためにベトナムを訪問し、当時のホーチミン市人民委員長と積極的に協議をさせていただいた。当時、協議は難航したが、開業したと伺い大変うれしく思った。本プロジェクトは日本や日本企業が長い年月をかけて取り組んできた事業であり、企業として重要な課題が解決されない状況となれば、次のプロジェクトへの意欲が萎えてしまう。日本企業にとって大きな課題であり、象徴的な課題であると考えている。関わった企業のみならず、ベトナムへ進出・投資を検討している多くの日本企業が、この課題の解決のあり方に注目している。日本企業が今後もベトナムで事業に積極的に参画できるような結果を出すことが将来の進出・投資を考える日本企業にとって大きな課題であるとの発言があった。

最後に、ドゥオック委員長より、また確認しながら話をすることとし、細かい話は、双方の事務方で引き続き調整したいとの発言があった。

（７）ホーチミン市都市鉄道１号線（メトロ）視察

・期　日　８月９日（土）16:30
・対応者　グエン・チュン・ヒエウ（Nguyen Trung Hieu）ホーチミン市都市鉄道１号線管理委員会（PMU1）副委員長他
・概　要　ベンタイン駅構内において、担当者より概要説明を聴取した後、タオディエン駅まで１号線に試乗した。

ホーチミン市都市鉄道１号線について

都市鉄道１号線は、日本のＯＤＡ事業として当初計画では 2015 年１月に開業する予定だったが、行政手続の遅れやコロナ禍による影響などにより約 10 年遅れた 2024 年 12 月に開業した。

ホーチミン市中心部のベンタイン駅から北東部のスオイティエン駅までを 14 駅、全長 19.7km で結ぶ路線となっており、ベンタイン駅からバソン駅までの３駅のみが地下区間、それ以外は高架区間となっている。都市鉄道はハノイに２路線があるものの、地下鉄としてはホーチミン市都市鉄道１号線がベトナム初となっている。

都市鉄道の整備は、人口が急増するホーチミン市において交通渋滞の緩和や大気汚染の軽減の役割が期待されている。ホーチミン市では、都市鉄道は８路線が計画されているが、現在、ベンタイン駅から北西に向かう２号線が、2030 年の完成を目指して整備が進められている。

（※）９．参考資料（１）ホーチミン市都市鉄道建設事業（ベンタイン―スオイティエン間（１号線））参照